南神苑

南神苑は伝統的な回遊式庭園で、平安時代（794～1185）の様式です。南神苑は、桜の木の林から始まります。4月中旬になると、八重紅枝垂という枝垂れの八重桜が咲き誇ります。房のように咲く花々は、日本で最もよく見られるソメイヨシノという品種よりも深みのあるピンク色をしています。

南神苑に植えられている多くの木々や花々は、平安時代の有名な文学作品や古典的な詩歌に登場するという理由から選ばれました。この庭園には、決められた順路はありません。回遊式庭園はさまざまな方向に枝分かれする狭く曲がりくねった小径をゆっくり歩くために作られています。木々や花々を寄せ植えすることで、囲まれた空間を生み出し、その中を小川が流れています。平安時代には、上流階級の人々がこのような庭園で時を過ごし、芸術的着想や安らぎを求めたり、思案にふけったり、あるいは客人と親しく会話を楽しんだのでしょう。